



# 女性作家の行方

若松賤子(写真:日本近代文学館蔵)

樋口一葉(写真:日本近代文学館蔵)

三宅花園(写真:日本近代文学館蔵)



## 第5回 フェリス女学院大学 日本文学国際会議

2006年11月17日金・18日土

入場無料

フェリス女学院大学緑園キャンパス・8号館グリーンホール

[主催] フェリス女学院大学

[後援] 日本近代文学館

URL <http://www.ferris.ac.jp>

日本文学国際会議事務局／〒245-8650 神奈川県横浜市泉区緑園4-5-3

TEL:045-812-9129 FAX:045-812-9613

<横浜駅より相鉄いずみ野線「緑園都市」(快速17分)駅下車徒歩3分>

フェリス女学院大学日本文学国際会議も今年で5回目を迎えます。今年度は「女性作家の行方」というテーマで開催する運びとなりました。現在の日本文学で、とりわけ、女性たちの活躍がめざましいことは、誰しも認めることです。では、女性たちはどのように声をあげるのでしょうか。古典から現代までを振り返り、源氏物語以降、女性文学の役割を現代の女性作家がどう受け継ぎ、変貌させていったのか、現在活躍中の作家自身の口から語ってもらうとともに、海外の翻訳者・研究者を招待して、女性文学の復権とその行方を、世界の動向の中で見つめていきたいと思います。フェリス女学院大学は『小公子』の翻訳で知られる若松賤子以来、外国文学の翻訳、女性の立場からの言葉の発信に、とりわけ意欲的に取り組んできました。日本で最初の女子大学ならではの、女性文学の可能性を考える会としたいと思います。

# 第5回フェリス女学院大学 日本文学国際会議 女性作家の行方 プログラム

(個別報告、シンポジウムとも使用言語は両日とも日本語です。報告者が変更になる場合があります。)

11月17日(金) 緑園キャンパス グリーンホール

9:30~ 開会式 挨拶 フェリス女学院大学長 本間 慎

## 【個別報告】

女性作家の登場と『女学雑誌』

岡西愛濃氏(フェリス女学院大学大学院生)

情報漫画からソフト・ポルノまで:源氏物語の七変化

リン・ミヤケ氏(アメリカ・ポモナ大学教授)

女性作家における語りの行方

ジャック・レヴィ氏(明治学院大学教授)

一葉から晶子へ

関礼子氏(亜細亜大学教授)

樋口一葉・〈足〉の語り

三田村雅子氏(フェリス女学院大学教授)

16:30~17:30 【朗読】樋口一葉『たけくらべ』 朗読家 幸田弘子氏

11月18日(土) 緑園キャンパス グリーンホール

## 【個別報告】

柳美里作品における〈母性〉とエスニシティをめぐって

クリスティーナ・岩田ワイケナント氏(ドイツ・トリア大学大学院生)

自己を語るとは—柳美里の場合—

許昊氏(韓国・水原大学教授)

五四時期の中国における日本女性文学の翻訳と受容—与謝野晶子を中心として 王中忱氏(中国・清華大学教授)

14:30~15:30 【基調講演】日本語が亡びるとき—英語の世紀の中で 小説家 水村美苗氏

## 総括シンポジウム

閉会式 フェリス女学院大学人文科学研究科日本文学専攻主任 三田村雅子



出典『文芸俱楽部』第12編 明治28年12月発行  
(写真:日本近代文学館蔵)

### 各交通機関所要時間

